

2024 年度
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科
都市政策科学域 選抜試験（冬季）
博士前期課程（一般・社会人）（4月入学）

科目 < 専門科目 >
時間 12 : 30 ~ 14 : 30

- 注意事項：①問題の選択にあたっては、最初のページの冒頭の説明をよく読んで解答しなさい。
②解答は、配布された答案用紙1枚ずつに、選択した問題1題ずつを別々に解答しなさい。
③答案用紙の「学修番号」欄に「受験番号」を、「氏名」欄に「氏名」を、「題目」欄に問題のコード番号を記入してください。
④解答は、問題に指示がない限り日本語で行うこと。
⑤監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください（その他、監督者の指示に従うこと）。

受験番号	一般・社会人	氏名
------	--------	----

以下、601から613まで13個のコード番号について、それぞれ問題があります。

これら全13問（13コード）の中から2問（2コード）を選択して解答しなさい。

ただし、第一希望とした教員のコード番号の問題は、必ず選択すること。また、1問につき答案用紙1枚に解答すること。

教員コード

山村 崇	601
伊藤 史子	602
饗庭 伸	603
市古 太郎	604
朝日 ちさと	605
奥 真美	606
白石 賢	607

金子 憲	608
松井 望	609
長野 基	610
大槻 茂実	611
杉原 陽子	612
山本 薫子	613

601

(1) 日本の大都市における「住工混在 (residential-industrial mixed land uses)」について、その欠点と利点の両方に言及しながら、600字程度 (もしくは、英語300ワード程度) で説明しなさい。ただし、以下のキーワードを全て用い、それらには下線を引くこと。

キーワード：脱工業化 (de-industrialization)、集積の不利益 (disadvantages of agglomeration)、産業風土 (industrial milieu)

(2) 日本の大都市において、「住工混在 (residential-industrial mixed land uses)」による諸問題に対処するために行われる以下の取り組みについて、それぞれ400字程度 (もしくは、それぞれ英語200ワード程度) で説明しなさい。

- ① 工場アパート (factory apartment) の建設
- ② 事業者 (business operator) と地域住民 (local resident) との良好な関係の構築

解答には日本語または英語を用いること。

遊歩道整備の案が2つ（案1、案2とする）提案されており、どちらを実施するのが適当かを検討する場面を考える。

- (1) 便益推計に CVM（仮想市場評価法）を用いる場合に、適切な調査方法を説明しなさい。
「支払い形態」、「回答方式」の2語を用い、これらの語には下線を付すこと。
- (2) 得られた調査結果から2案の便益（ B_1 、 B_2 とする）を推計する方法を説明しなさい。
- (3) 推計された2案の便益から、どちらを実施するか選択する方法を説明しなさい。そのために得ておくべき他のデータが有れば、その点についても言及しなさい。

※いずれも手法や手順を具体的に、数式や図を加えて説明することが望ましい。ただし、解答に数値そのものが記されている必要は無い。

※解答には日本語または英語を用いること。

<以下は英語訳>

There are two proposals (Plan 1 and Plan 2) to improve the promenade, and we are considering which of the two is appropriate to implement.

(1) Propose the appropriate survey method when using the CVM (Contingent Valuation Method) for benefit estimation.

The two phrases "form of payment" and "response method" should be used in the answer, and these phrases should be underlined.

(2) Explain how to estimate the benefits of the two plans (B_1 and B_2) from the results of the survey results obtained.

(3) Explain how to choose which plan to implement from the estimated benefits of the two. If other data should be obtained for this purpose, please mention them as well.

*The answers should describe the methods and procedures in detail. It is desirable to include mathematical formulas or charts in the explanation. However, it is not necessary to include the numerical values themselves in your answers.

*Answers must be in Japanese or English.

以下の（１）（２）（３）（４）（５）の各課題に対応するため、都市計画やまちづくりで使われる具体的な理論や方法、およびその詳細をそれぞれ300文字程度（英文の場合は150words程度）で解説しなさい。なお、各々の課題に対して複数の理論や方法があるが、全てを網羅する必要はなく、1種類以上の理論や方法の解答で構わない。また、日本固有の理論や方法である必要はない。解答には日本語または英語を用いること。

- （１）風俗店の立地の規制
- （２）コンパクトシティの形成
- （３）建物が密集した駅前商業地域の再生
- （４）鉄道踏切による道路混雑の解消
- （５）住宅地の緑化

次の文は、Ben Wisner, Piers Blaikie, Terry Cannon, and Ian Davis の"At Risk"(2004 年)における Vulnerability の定義である。

To begin, we offer a simple working definition. By vulnerability we mean the characteristics of a person or group and their situation that influence their capacity to anticipate, cope with, resist and recover from the impact of a natural hazard. It involves a combination of factors that determine the degree to which someone's life, livelihood, property and other assets are put at risk by a discrete and identifiable event in nature and in society... 【中略】 ... While all of these are components of people's vulnerability, a building should be regarded as unsafe, rather than vulnerable; a settlement's location is hazardous, not vulnerable. We retain the term vulnerability for people only. The reason for this is straightforward: already the term vulnerability has been appropriated for use in such a wide range of situations that it is in danger of losing its significance in relation to people and hazards.

Ben Wisner, Piers Blaikie, Terry Cannon, and Ian Davis, At Risk Second edition, Routledge,2004, pp.11-12

(1) "At Risk"で述べられる Vulnerability について、150 字程度で説明しなさい。

(2)"At Risk"では、Vulnerability に加えて Risk について下記の定義がある (H は Hazard である)。

$$R = H \times V$$

この定義が意味することを説明しなさい。

(3)上記文章の下線部について、その具体的な significance の内容として考えられる事柄を1つ挙げ、あわせて、その理由を述べなさい。

(4) "At Risk"の Vulnerability 理論を、大発災後、避難生活者を対象とした「応急仮設住宅への入居意向調査」に用いるとしたら、どんな調査目的および調査項目が考えられるか、述べなさい (調査目的とは、仮設住宅の提供戸数だけでなく、見守り相談などの生活支援策も含む)。

次の問に答えなさい。必要に応じて計算の過程を記載すること。解答は日本語あるいは英語とします。

- 1) x_1 と x_2 の 2 種類のみ財がある経済を考えます。それぞれの価格を $p_1 = 1$ 、 $p_2 = 4$ とします。個人 A の効用関数 u_A と予算制約式が次のように与えられるとします。個人 A の x_1 と x_2 の最適な消費の組み合わせ (x_{1A}, x_{2A}) と、そのときの個人 A の効用水準を求めなさい。

個人 A の効用関数： $u_A = x_{1A}x_{2A}$

予算制約式： $x_{1A} + 4x_{2A} = 8$

- 2) 1) における個人 A の消費 x_{2A} は寄付であり、個人 A は、寄付によって可能となる個人 B の消費 x_{2B} によっても効用を得られるとします。このとき、 $x_{2A} = x_{2B}$ となります。個人 B の効用関数 u_B が次のように与えられるとき、次の問①および②に答えなさい。

- ① A と B の効用の和を W とします。このように、人々の経済厚生を定量的に表せるという前提のもとで社会の状態を評価する関数を何といいますか。
- ② W を最大にするような x_{1A} 、 x_{2A} 、 x_{2B} の組み合わせと、そのときの個人 A と B の効用水準を求めなさい。

個人 B の効用関数： $u_B = x_{2B}$

効用関数の和： $W = u_A + u_B$

- 3) 2) における W について、次のように個人 B の効用 u_B にウェイト a をかけるとします。このとき、以下の条件①および②のもとで W を最大にするような a の条件を求めなさい。

$$W = u_A + au_B$$

- ① 個人 A の消費 x_{1A} は寄付 x_{2A} より大きい
- ② 個人 B の効用のウェイト a は 1 より大きい ($a > 1$)

プラスチックをめぐる環境問題に関する以下の問いにすべて答えなさい。

- (1) プラスチックをめぐる環境問題を複数挙げて、それらが引き起こされる要因も含めて、概要を説明しなさい。
- (2) プラスチックをめぐる環境問題に係る日本の法政策的枠組みとその限界について説明しなさい。
- (3) (2)の解答で指摘した限界の克服に向けて、法がどのような役割を果たすことができるか。諸外国における取組みなども踏まえつつ、論じなさい。

Tversky と Kahneman(1974)*は、推論に頼らない意思決定の方法として、以下の3つのヒューリスティクスを挙げている。それぞれのヒューリスティクスについて、具体例を挙げて説明しなさい。

- (1) 代表性ヒューリスティクス(representativeness heuristics)
- (2) 利用可能性ヒューリスティクス(availability heuristics)
- (3) アンカリング(anchoring)

* Tversky, A. and Kahneman, D., Judgment under Uncertainty: Heuristics and Biases Science, New Series, Vol.185, No.4157. (Sep.27,1974), pp.1124-1131.

608

最適間接税に関するラムゼー・ルールについて、図を用いて説明しなさい。

官僚制内部での上司による命令と部下の服従について論ぜよ。

解答の際には、次の各用語を必ず用いること。各用語の使用順序は解答者の任意とする。本文中に各用語を用いた場合には、各用語の初出時に各用語に下線を引くこと。

権威による支配 地位による支配 権限による支配 チェスター・バーナード 無関心圏

市町村における政策決定の様態を分析する上で、「コーポラティズム」概念が持つ意義にはどのようなものが考えられるか(問題点があれば, その問題点を含む), 説明しなさい。なお, 論述に当たっては, 同概念の説明も行うこと。また, 具体的な自治体名などを挙げても構わない。必要に応じて数式や図を用いてもよい。

次の文中の [A] ~ [J] について【】内の選択肢の中で最も適切な語句を1つずつ選び、解答用紙に各アルファベットと語句の選択肢番号を記入しなさい。語句は記さないこと。

(1) 以下は『社会学小辞典』に記載された社会学の概念 [B] についての引用である（ただし、[A] [B] 部分は加工）。

『
』

濱嶋朗ほか編, 1997, 『(新版) 社会学小辞典』, 有斐閣, p281. ただし、[A] [B] は加工

- A 【1. デュルケム 2. フーコー 3. ブルデュー 4. ジンメル】
B 【1. 集合的時間 2. 集合的沸騰 3. 集合的記憶 4. 集合的無意識】

(2) 以下は『社会学小辞典』に記載された社会調査法に関する用語 [C] についての引用である。

『
』

濱嶋朗ほか編, 1997, 『(新版) 社会学小辞典』, 有斐閣, p334.

- C 【1. 信頼度 2. 妥当性 3. 決定係数 4. 独立性】

注意：次ページにも問題があります

(3) 調査票において調査対象の性別、年齢などの属性を捉えるために設ける項目群を [D] という。

D 【1. イベントヒストリー 2. ライフヒストリー 3. フェイスシート 4. フェイスワーク】

(4) ラベリング理論を提唱したベッカーの著作の主題は [E] である。

E 【1. アウトサイダーズ 2. 脱学校の社会 3. 流言と社会 4. 非行の原因】

(5) 社会的性格という概念を提出した代表的な研究者は [F] である。

F 【1. リッツァ 2. フロム 3. コールマン 4. マイヤー】

(6) ハイマンは主観的地位を検討する上で [G] という概念を提示した。

G 【1. アノミー 2. 相対的貧困 3. F尺度 4. 準拠集団】

(7) バートは [H] を提示し、重複の少ないつながりの重要性を指摘した。

H 【1. 修正拡大家族 2. コミュニティ・スクール 3. コミュニティ・ビルディング 4. 構造的空隙】

(8) 自己成就的予言（予言の自己成就）は [I] が定着させた概念である。

I 【1. コリンズ 2. ベック 3. マートン 4. パーソンズ】

注意：次ページにも問題があります

(9) クロス表の各セルの度数から変数間の関連のパターンを捉える〔 J 〕は階層研究における世代間移動を検討する上で活用される。

J 【1. ログリニア・モデル 2. 多次元尺度構成法 3. ロジスティック回帰分析 4. 因子分析】

(1) 介護・福祉に関する以下の各用語について説明しなさい。

- 1) ADL
- 2) IADL
- 3) BPSD
- 4) 地域包括支援センター
- 5) 介護支援専門員（ケアマネジャー）

(2) ヘルスプロモーションに関する以下の設問に答えなさい。

1) 空欄(a)～(e)に入る適切な語を書きなさい。

ヘルスプロモーションとは、WHOが1986年の(a)憲章において提唱した新しい健康観に基づく健康戦略であり、「人々が自らの(b)とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義される。ヘルスプロモーションのための活動として、健康的な(c)政策づくり、健康を支援する(d)の創造、(e)活動の強化、個人的スキルの向上、ヘルスサービスの方向転換が挙げられている。

2) 近年のヘルスプロモーション活動は、健康無関心層も含めて、誰もがアクセスでき、自然に健康になれるような取組が推進されている。どのような取組を進めるのが良いか、例を2つ挙げ、それらの取組によって期待される効果についても述べなさい。

(3) 図は、28カ国の1974～2011年における所得格差と平均寿命の格差を示したものである。左図は税引前の所得格差と平均寿命の格差を、右図は税や社会保険等による所得再分配後の所得格差と平均寿命の格差をプロットしたものである。これらの図からわかることを述べなさい。

図は著作権保護のため掲載していません。

(出典) Neumayer, E., & Plümer, T. (2016). Inequalities of income and inequalities of longevity: a cross-country study. *American journal of public health, 106(1)*, 160-165.

(1) 都市社会学の学説に関する説明である。空欄(a)～(f)に入る適切な語を書きなさい。

ルイス・ワースは、(a)量が相対的に多いという(b)的特徴を、都市の定義に用いた。そして、ワースは、都市で暮らす人々の社会関係が(c)的接触よりも(d)的接触に特徴づけられるようになることを指摘した。

マニュエル・カステルは、(e)学派の都市社会学を批判し、「都市を生み出す」力の所在を探ろうという問題提起をおこなった。カステルらによる学問的アプローチは「(f)社会学」と呼ばれた。

(2) 都市とジェンダーに関する説明である。空欄(g)～(k)に入る適切な語を書きなさい。

郊外化の進展は(g)分業を進行させ、(h)家族モデルを一般化させた。1970年代の日本の郊外住宅地では、(i)を中心とした市民運動が活発に行われ、(j)施設の建設請願・拡充活動、生協活動、子どものための文化活動など生活改善を求める多様な活動が展開された。これらの活動を基盤として、生活クラブ生協を母体にした(k)方式による女性の政治参加の形態が生まれ出されていった。

(3) 日本の地方都市の類型概念の一つである「伝統消費型都市」について以下の問いに答えなさい。

- ① 「伝統消費型都市」はどのような人々(層)によって成り立っているか。「伝統消費型都市」の社会構成を説明しなさい。
- ② 上記①で挙げたうち、「伝統消費型都市」の社会構造の頂点にいる人々(層)がどれかを明示した上で、「伝統消費型都市」においてその人々(層)による支配体制が維持され続けた理由を説明しなさい。